

ゆい 結通信

NO. 35

2017年10月25日

地域コミュニティの再生に必要なものは？

牧野直子

超高齢社会が迫っている

箕面市では、今2020年の地下鉄延伸計画が着々と進められています。それに合わせて船場のまちが大きく変わろうとしています。箕面市立病院やグリーンホールの建替えも検討されています。一方で、箕面市では高齢化(65歳以上)率が今や25%、つまり4人に1人とのことです。そして団塊の世代が一斉に後期高齢者(75歳以上)になる2025年はもう目前です。とりわけ、箕面市東部の粟生間谷や小野原東の地域などは急速に高齢化がすすんでいます。今後はコミュニティ政策の充実が望まれます。しかし、北急延伸後のまちづくりは、ハードだけが先行し、ソフトが追いついていないように思えてなりません。

コミュニティ再生の三種の神器とは？

地域コミュニティの力が弱くなっているとよく指摘されます。コミュニティ再生に必要な3つは？と聞かれたら、私は「コミュニティセンター」「コミュニティバス」「コミュニティ放送」と答えます。箕面市はいち早く、各小学校区に「コミセン」を作りました。ただ、コミセンは一人でぶらっと立ち寄れるところではありません。

私は、いつも誰でも気軽に立ち寄れて、お茶したり、おしゃべりしたり、時には相談したりできるスペースが必要だと考えて「結ルーム」を作りました。今後、地域でそのような居場所が必要です。コミセンの課題でもあるでしょう。

また、いくつになっても自由に動けるためには「コミュニティバス」の充実が望まれます。箕面には「オレンジゆずるバス」が何年もの実証実験を経てようやく定着しました。しかし、まだまだ改良の余地があります。

さらに、阪神淡路大震災の年に開局した「タッキー816みのおエフエム」もいざという時には大切な存在です。ただ、日頃から聴く習慣がなければいざという時に役立たないでしょう。残念ながら、多くの高齢市民はタッキーの放送を聴いてい

ません。

そこで、タッキー816応援団が制作し「歌ってきょうも元気！」といういわば歌のラジオ体操を通してタッキー816を日頃から聴く習慣をつけ、あわせて健康作りに取り組んでもらおうと考え、今年8月からいよいよ放送が始まりました。

みんなで力を合わせる

「歌ってきょうも元気！」も多くの歌声サークルや合唱団の方々の協力をいただいて、番組作りをしています。自分たちの楽しみを地域の方々にもおすそ分けしていただく、そんな取り組みがまちを元気にするのではないのでしょうか？

大事なことは、それを誰か力のある人がやるのではなく、みんなの持てる力を合わせることにあります。ハードを整備してもソフトが機能しないとまちは育ちません。そしてそれは一朝一夕にはできません。息の長い根気のいる活動がベースにあって、豊かな関係ができ、まちが醸成されていくことでしょう。

そんなまちを「結みのお」で培った力を元に、みんなで作っていききたいものです。



結ルーム

開所日には、会員の方が入れ替わり立ち替わり来られて、賑やかです

オレンジゆずるバス

徐々に使いやすくなり、お買い物、通院など利用者が増えています



タッキー816 みのおエフエム

「歌ってきょうも元気!」、街かどレポーター、緊急災害情報など市民のラジオです

● 歌って今日も元気!
ON AIR▶月~金曜日 9時・17時54分